

# 工事成績評定について

国土交通省大臣官房技術調査課

技術管理係長 たねくら 種蔵 ふみのり 史典



## はじめに

平成17年4月に制定された「公共工事の品質確保の促進に関する法律」等において、受注者の適正な評価が求められている中、公共工事においては、発注者による施工状況の評価が「工事成績評定」として実施されているところである。また、工事成績評定は、その結果が次回以降の入札資格

要件や技術力評価の一要素となっており、品質確保のために講じられる各種施策と関連しつつ、発注者・受注者の双方にとって、今後、ますます重要性が高まっていくものと考えている。

そのような観点から、国土交通省では、工事成績評定の適切な理解を一層促進すること等を目的として、過年度に実施した直轄工事における工事成績評定点をさまざまな観点から分析し、その傾向や特性について取りまとめたところである。

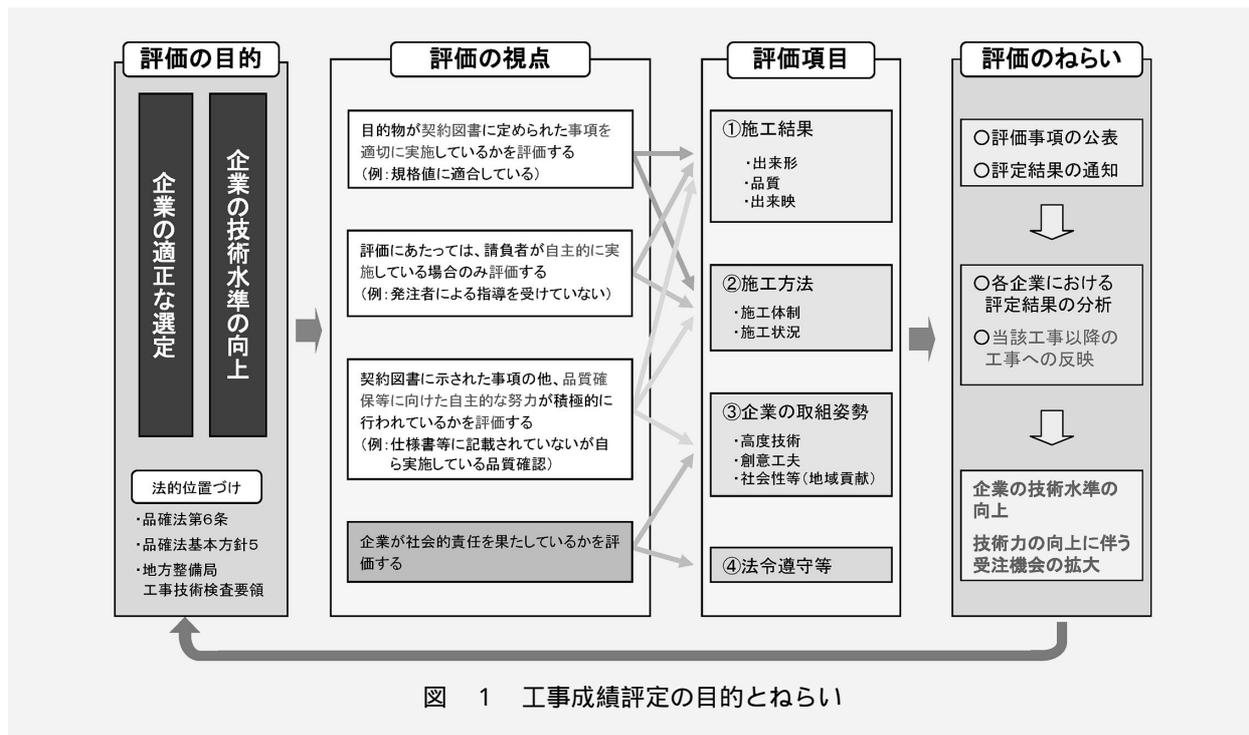


図 1 工事成績評定の目的とねらい

さらに、成績評定の結果を入札資格要件や技術力評価に活用するためには、多様な観点から優秀な企業を峻別することが有効であるものと考え、従来の優良企業表彰に加えて、継続して高い成績を修めている企業や、優良な下請企業に対する表彰制度の導入を進めているところである。

## 2 工事成績評定について

公共工事の発注者は、入札・契約の適正化を促進するために、平成12年11月に制定された「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律（以下、「適化法」という）」および、公共工事の品質確保を促進するために、平成17年4月に制定された「公共工事の品質確保の促進に関する法律（以下、「品確法」という）」に基づき、工事中および完成時の施工状況の確認および評価を通じて、受注者を適正に選定するため、工事成績評定を実施しているところである。

国土交通省では、平成13年3月に「請負工事成績評定要領」を定めるなど、厳正かつ確な評定の実施に努めているところであり、施工体制、施工状況、出来形、出来映え、高度技術、創意工

夫、社会性、法令遵守等（表 1 参照）について、工事検査終了後に監督職員と検査職員が評定を実施し、評定点は、企業の格付けおよび個別工事の競争参加資格審査に活用している。

## 3 分析について

平成18年度に完了した国土交通省発注の土木工事（一般土木、アスファルト舗装、鋼橋上部、造園、セメント・コンクリート舗装、プレストレスト・コンクリート、法面処理、塗装、維持修繕、しゅんせつ、グラウト、杭打ち、さく井）に関する工事成績評定点の分析結果を紹介する。なお、このような工事成績の統計的な分析は、平成15年度に完了した工事を対象に分析を開始したところであるが、以下に示す傾向については、経年的に大きな変化は見られない。

### (1) 一般的事項

平成18年度に完了した10,382件の土木工事について分析したところ、工事成績評定点の分布は図 2 のとおりとなっており、平均点数は74.4点、標準偏差は4.87点であった。また、図 3 は、工種ごとの平均点数について整理したものであり、

表 1 工事成績評定の評価項目

項目	細別	評価内容
1. 施工体制	I 施工体制一般	施工体制が適切であるか 技術者が適切に配置されているか（現場代理人等の配置、現場指導、施工状況の把握等）
	II 配置技術者	
2. 施工状況	I 施工管理	施工管理が適切であるか（施工計画と現場施工の状況、出来形管理等） 工程管理が適切であるか（工程管理の状況、工期等） 安全対策を適切に行ったか（工事安全への取り組み、安全教育の実施状況等） 対外関係が適切であったか（関係機関との調整状況、地元対応、関連工事との調整等）
	II 工程管理	
	III 安全対策	
	IV 対外関係	
3. 出来形及び出来映え	I 出来形	出来形が測定項目、測定基準および規格値を満足し、ばらつきが少ないか（設計図書との対比等） 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足し、ばらつきが少ないか（ミルシート等） 仕上げがきめ細かく、全体的に美観が良いか（仕上がり具合（端部や接続部等）、均一性等）
	II 品質	
	III 出来映え	
4. 高度技術	I 高度技術力	工事全体を通じて他の類似工事に比べて、特異な技術力が必要であった技術を評価する（厳しい自然条件・社会条件への対応状況等）
5. 創意工夫	I 創意工夫	高度な技術力では評価するほどではないが、企業の工夫やノウハウにより、特筆すべき便益があるか（施工や品質管理、安全管理等における工夫の有無）
6. 社会性等	I 地域への貢献等	工事の施工に伴って、地域社会や住民に対して配慮するなどの貢献をしているか（環境保全への取り組み、ボランティア活動への参加等）
7. 法令遵守等		各種の法令等を遵守しなかったために受けた口頭注意、文書注意、指名停止等の処分の有無

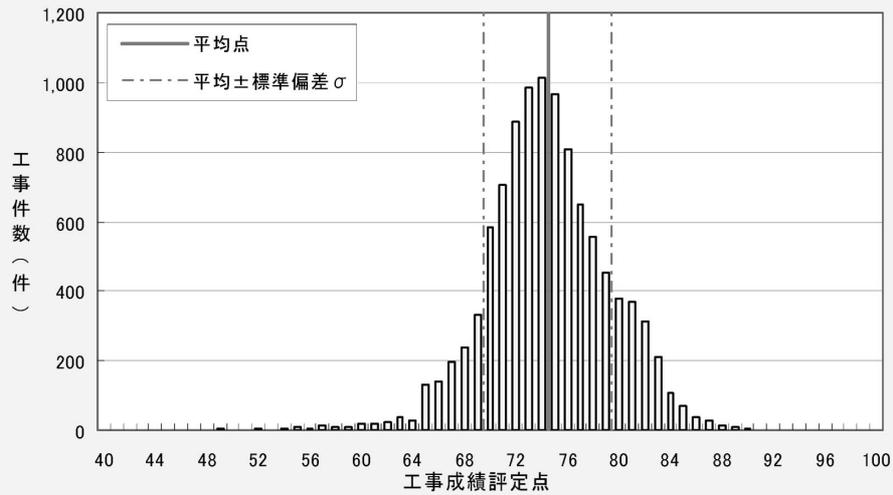


図 2 工事成績評定点の分布

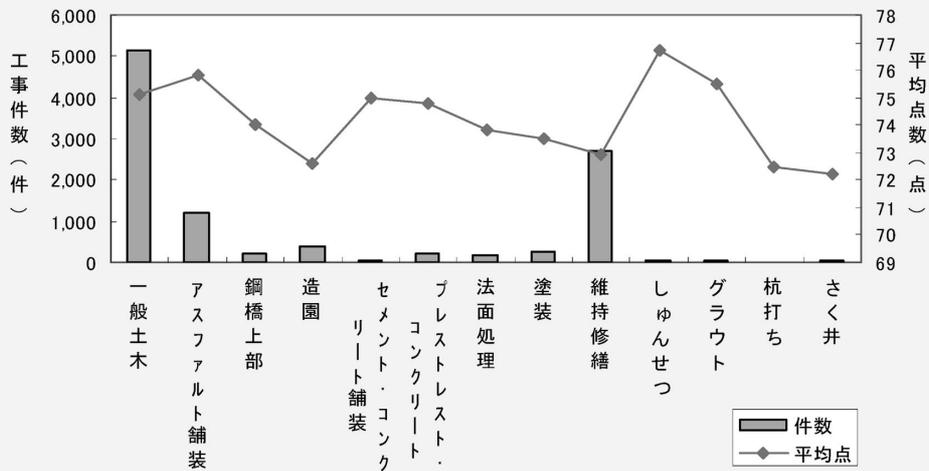


図 3 工種別平均点

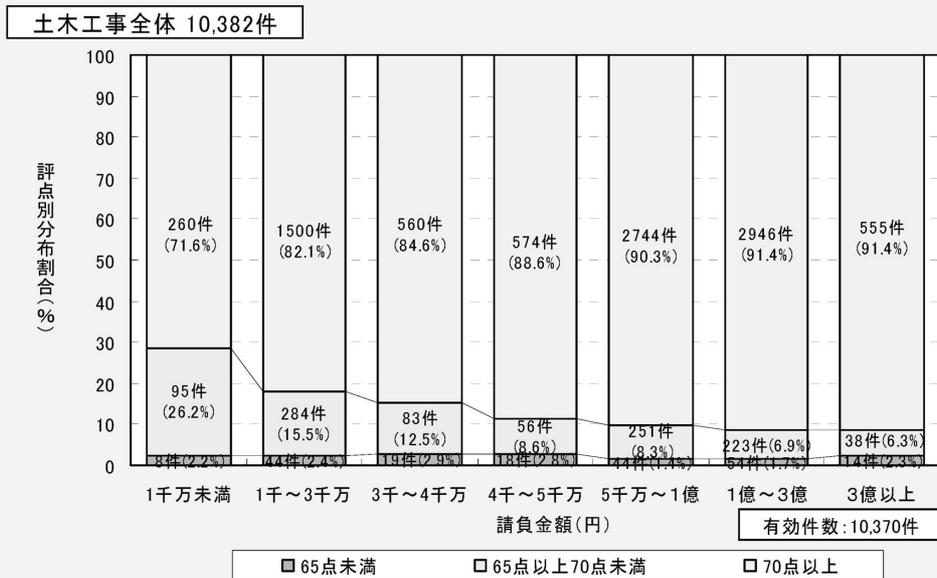


図 4 請負金額別の工事成績評定点の分布

平均点が高い工種と低い工種を比較すると、最大で5点程度の差異が見受けられる。

(2) 工事規模と工事成績評定点

請負金額別の工事成績評定点の分布は、図 4 のとおりであり、請負金額が高いほど、70点以上の高い評定点を取得している企業の割合が多い傾向が見受けられる。

(3) 落札金額と評定点数

図 5 は、落札率と工事成績評点の分布について整理したものであるが、落札率が低くなるほど

工事成績評定点も低くなる傾向が見受けられる。具体的には、落札率が低くなるほど、“85点以上”、“80点以上85点未満”、“75点以上80点未満”の分布割合が漸近的に減少し、“65点未満”、“65点以上70点未満”の分布割合は概ね漸的に増加している。また、図 6 は低入札価格調査対象工事（以下、「低入札工事」という）とその他の工事について、分布状況を整理したものであるが、低入札工事はその他の工事と比べて、平均点数が約5.1点低くなっている。

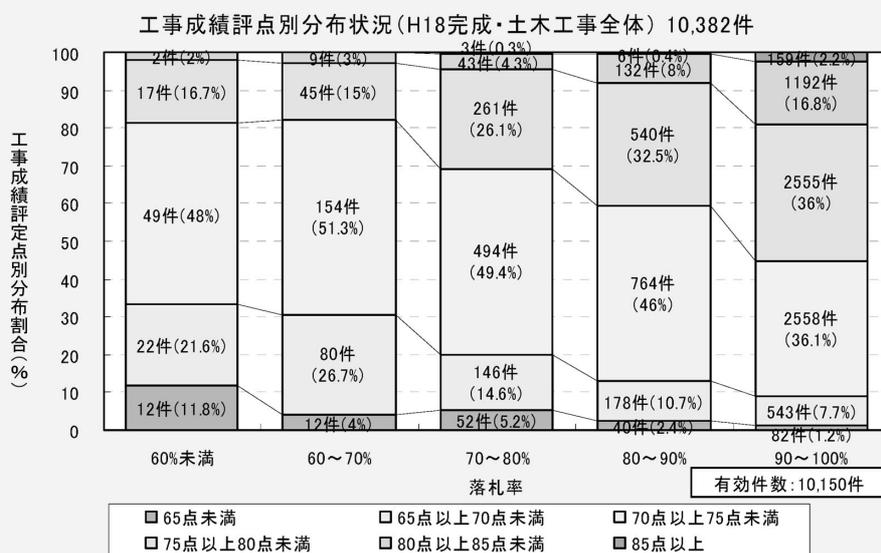


図 5 落札率別の工事成績評定点の分布

一般土木工事 工事成績評定点の分布状況【低入札工事と標準工事】

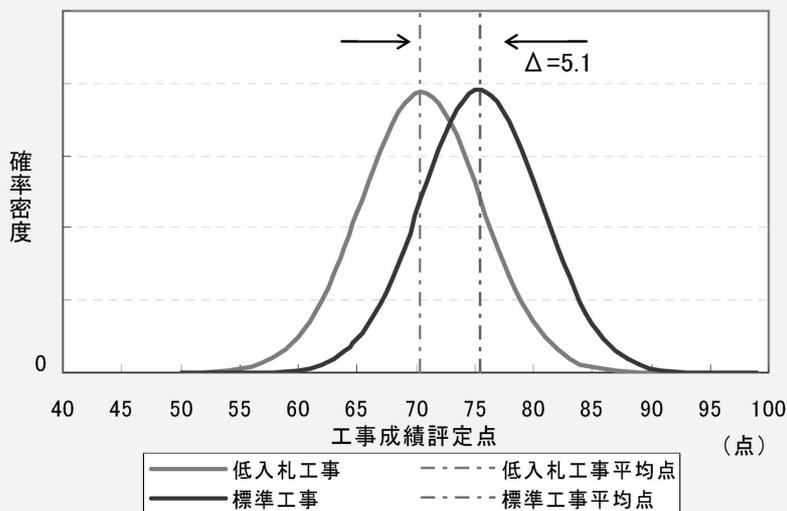


図 6 工事成績評定点に関する低入札価格調査対象工事とその他の工事の比較

低入札工事については、受注者による自主的な取り組みに加え、発注者の立場としても品質を担保するため、確認頻度を高めるとともに、完成後の検査が困難な不可視部分（橋脚の基礎等）について、受注者に施工状況のビデオ撮影や提出を求めるなど、重点的な監督を行っているところであるが、依然として成績評定点が低い傾向にある。

## 4

### 表彰制度の拡充について

国土交通省では、従来の優良企業表彰に加え、民間事業者の技術力の向上を一層図るため、複数年の工事成績評定の平均点が特に高い企業を表彰し、中間技術検査の実施回数の減免や総合評価落札方式の評価基準として活用するなど措置を平成18年度から導入している。

また、優良工事表彰等を受けた工事の下請企業について、当該工事の品質確保等への貢献や、元下請負契約や施工体制が適正であること等に関する審査を行い、下請企業および当該工事の主任技術者を表彰することとし、工事の品質確保ならびに下請企業の技術の向上の推進を図っているところである（図 7）。

平成19年度は、全国で126社について表彰を実施したところであり、その内訳は、図 8のとおりである。また、今後は、優秀な下請企業の活用を推進することにより、公共工事の品質を一層向上させることを目的として、総合評価落札方式における下請企業の表彰実績の活用を推進する予定である。

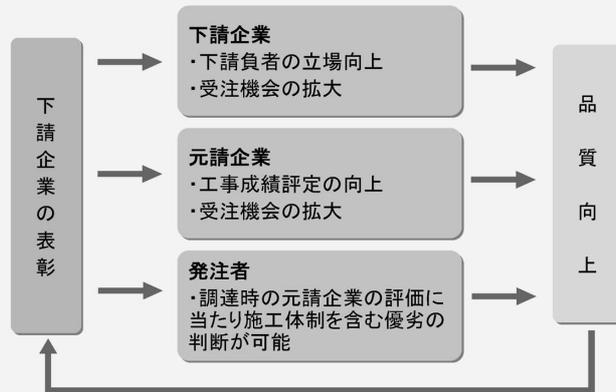


図 7 下請企業表彰

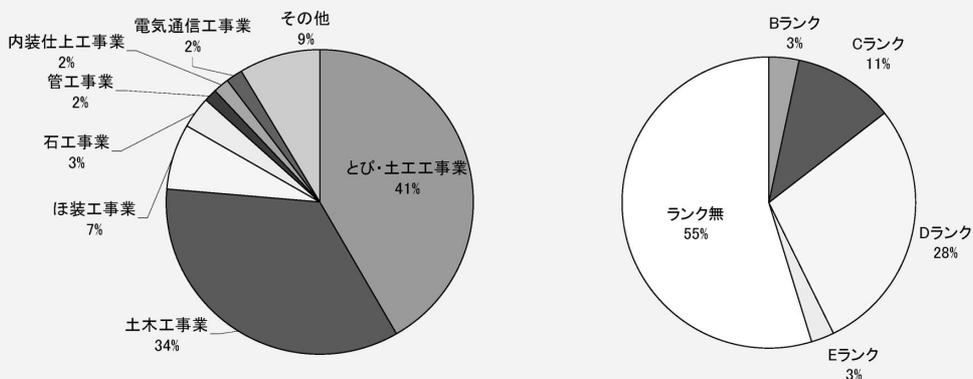


図 8 下請企業表彰における被表彰企業の内訳

表 2 平成18年度優秀企業表彰における被表彰企業の一覧

順不同、支店名および営業所名は省略

小野田ケミコ(株) 豊和工業(株) (株)シイナ重建 (株)遠藤組 函館どつく(株) (株)マルトヨ渡島土木 晃亜興業(株) (有)丸重清川 (株)千葉建設 (株)大建産業 丸井重機建設(株) (有)岩手特殊 陽光建設(株) (有)山北建設 アシストアーバン工業(株) (株)金子建設 (株)テノックス (有)イサミ建設 (株)相馬組 (株)田村工業 郡山建設(株) 高橋工業(株) (株)茨城建設 金沢興業(有) 板通(株) 極東建設(株) 第一石産運輸(株) フソウ開発工業(株) (株)高山工務店 日石石材(株) 桐井電設工業(株) (株)忠武建基	(株)塩川興業 (有)柳川工業 (株)三浦建設工業 東和道路(株) (有)丸和建材社 興亜建設(株) 藤井建設(株) 新榮橋梁建設(株) (株)大東 (株)輪田道路 富美通信興業(株) (有)柳川工業 大栄工業(株) ほくりく工業(株) 本間技建(株) 安部工業(株) (株)アソウ工業 (有)シンセイ (株)グリーン興発 シダチョー建設(株) 大河津建設(株) (有)長谷川工業 八嶋建設(株) (株)サカイ 木部建設(株) 青山機工(株) (株)蔵本 (株)新和組 (株)架設工事佐々木組 (株)大崎産業 清和テック(株) (株)東洋住設興業	池田建設工業(株) 東興建設(株) 伸栄建設(株) (株)冷井工務店 (株)鷹澤建設 坂本組(株) (有)樋田建設 (有)躍進 揖斐昭和建设(株) (有)西村工業 石原建設(株) 池端工業(株) (有)山水施工 (株)畑佐土木 (株)遠藤工務店 (株)スガナミ (株)長瀬土建 (有)MAT 橋梁工事 技研工事(株) (有)共進土建 名高土木(株) 日本技建(株) 豊田(株) ワールド開発工業(株) 山崎建設(株) 名星ディストラクト(株) ヒロセ(株) 中央建設(株) (株)谷口建設 (株)松川組 高橋建設(株) 司佐基工(株)	(株)たけうち 今治新港湾(株) 佐保開発(株) ライト工業(株) 阿岐工業(株) (株)礎建設 (株)朱雀産業 本田技建(株) (株)浅石建設 (株)朝日建設 (株)高知丸高 (有)好建設 (株)平川建設 森ブロック工業(株) (株)横山基礎工事 太洋港湾(株) 今建重機(有) (有)西井建設 (株)小原鉄筋工業 (株)春田建設 シナノ設備(株) (有)坂口設備工業 (有)東光八工事部 松栄興業(有) (有)大分レジン工業 黒田塗装(有) (有)かわの (株)リュウロード (株)羽地総業 (株)大雄土木
--	--	--	--



## 5 さいごに

前述のとおり、工事成績評定は、その結果が次回以降の入札資格要件や技術力評価の一要素となっており、品質確保のために講じられる各種施策と関連しつつ、発注者・受注者の双方にとって、今後、ますます重要性が高まっていくものと考えている。例えば、入札契約において総合評価を導入するに当たっては、価格のみならず、適切な技術力の評価が必要であり、過去に行った工事の実績である工事成績評定の活用が有効である。総合

評価制度については、地方公共団体への拡大が進められているところであり、あわせて、工事成績評定の実施や活用が積極的に行われることが求められるだろう。

国土交通省においては、「請負工事成績評定要領」の策定などによる評定方法の確立や、表彰制度などによる活用方策の構築、「小規模工事成績評定要領(案)」の作成などによる地方公共団体への工事成績評定実施のための支援に努めてきたところであるが、今後も、企業の技術力を一層適切に評価するための取り組みを継続することが必要であると考えている。